

# 「あきたこまちR」栽培のポイント

## 耕種概要と生育ステージ

作柄解析試験等

耕種概要（作柄解析試験と同一）

播種量と育苗：播種量 乾粳100g/箱、中苗、ビニールハウス内で無加温  
出芽・35日育苗。

基肥：0.7 kg/a (N、P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>、K<sub>2</sub>Oの3成分共通)。

追肥：減数分裂期に窒素で0.2kg/a。

栽植密度：20.6～20.8株/m<sup>2</sup>（70株/坪）、平均4本植え、6条移植機で移植。

移植月日： R3年 5/17\*、5/25      R4年 5/16、5/25

\*作柄解析試験ほ場ではないほ場を供試

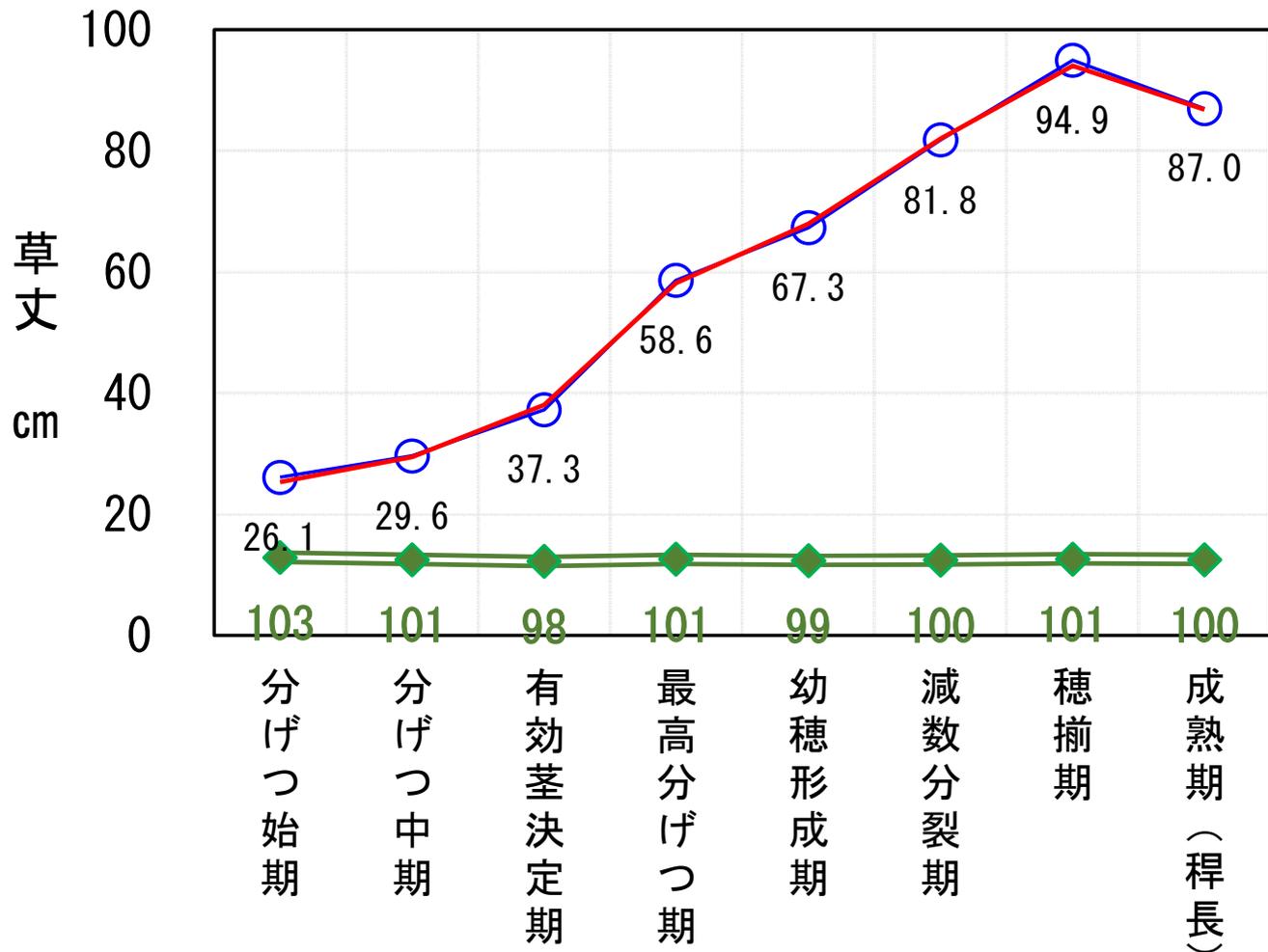
### 生育ステージ

試験年	移植日	品種	幼穂形成期	減数分裂期	出穂期	成熟期
R3年	5/17	あきたこまちR	7/11	7/21	7/27	9/8
		あきたこまち	7/11	7/21	7/28	9/9
	5/25	あきたこまちR	7/12	7/24	7/31	9/11
		あきたこまち	7/12	7/24	7/31	9/11
R4年	5/16	あきたこまちR	7/8	7/20	7/29	9/11
		あきたこまち	7/9	7/20	7/29	9/11
	5/25	あきたこまちR	7/14	7/25	8/4	9/18
		あきたこまち	7/14	7/25	8/4	9/18

→ ほとんど同じ  
～±1日違い。  
R5年も同様。

# 生育の特性(草丈)

○ あきたこまちR    — あきたこまち    ◆ 対あきたこまち比

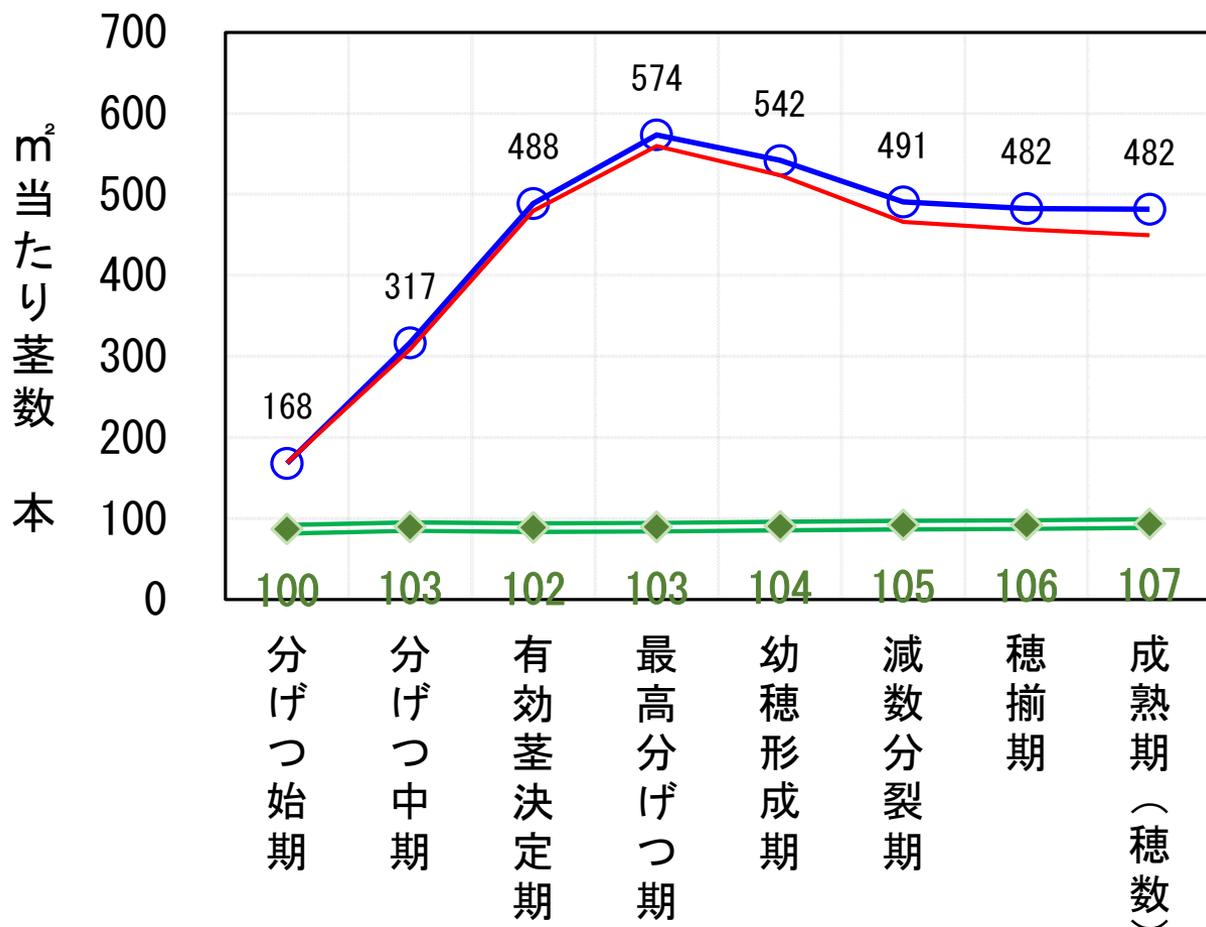


草丈と稈長は、  
ほとんど同じ

図中の黒字数値は あきたこまちRの平均値    緑字数値はあきたこまちとの比(%)を示す

# 生育の特性(茎数)

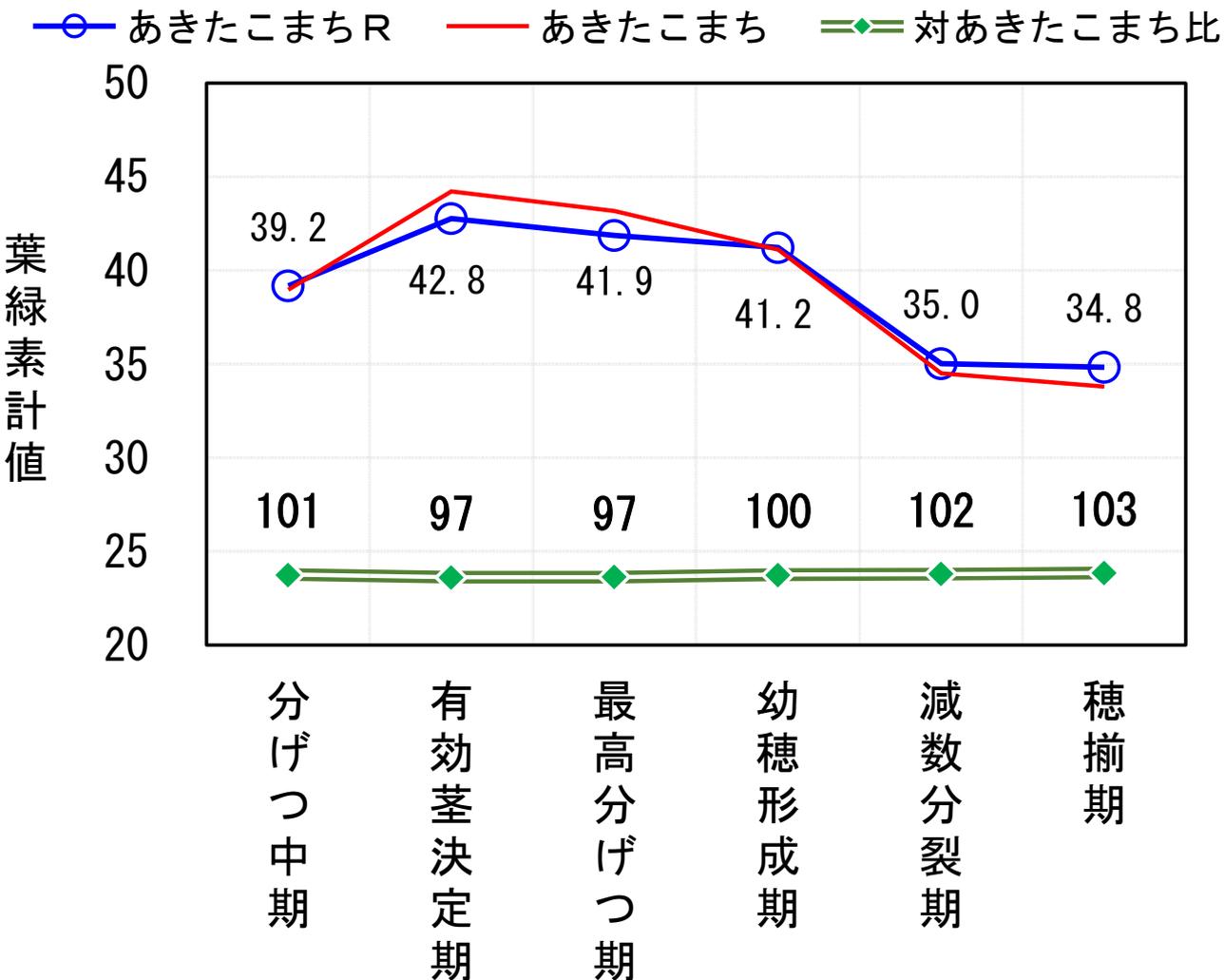
○ あきたこまち R    — あきたこまち    ◆ 対あきたこまち比



- ・ 茎数は、あきたこまち R が勝る場合とあきたこまちが勝る場合がある。
- ・ 平均するとあきたこまち R の茎数および穂数はやや多い傾向。

図中の黒字数値は あきたこまち R の平均値    緑字数値はあきたこまちとの比(%)を示す

# 生育の特性(葉色)



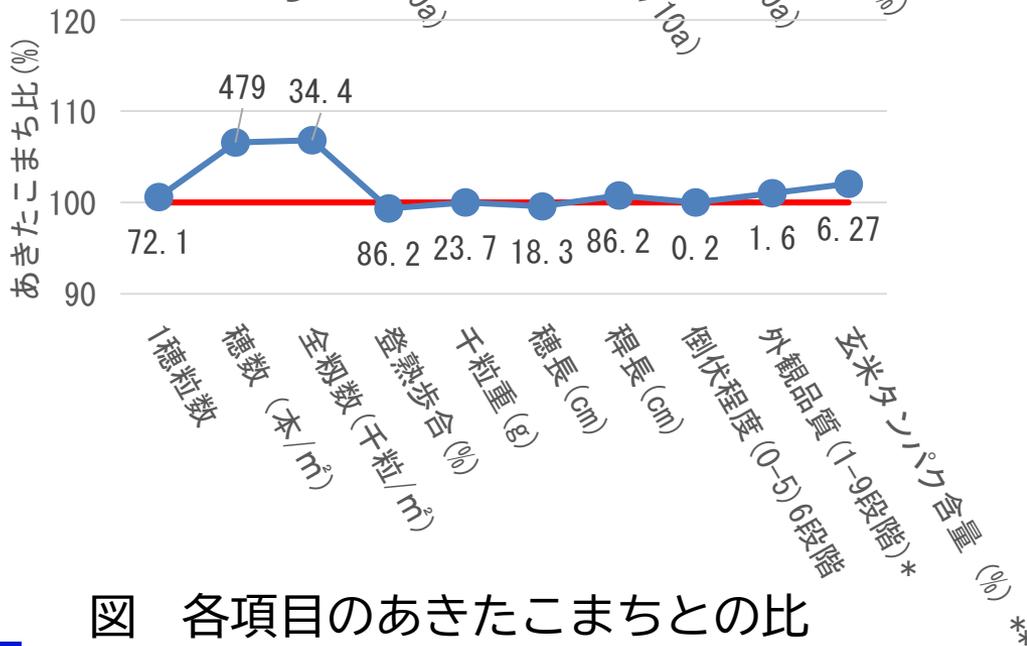
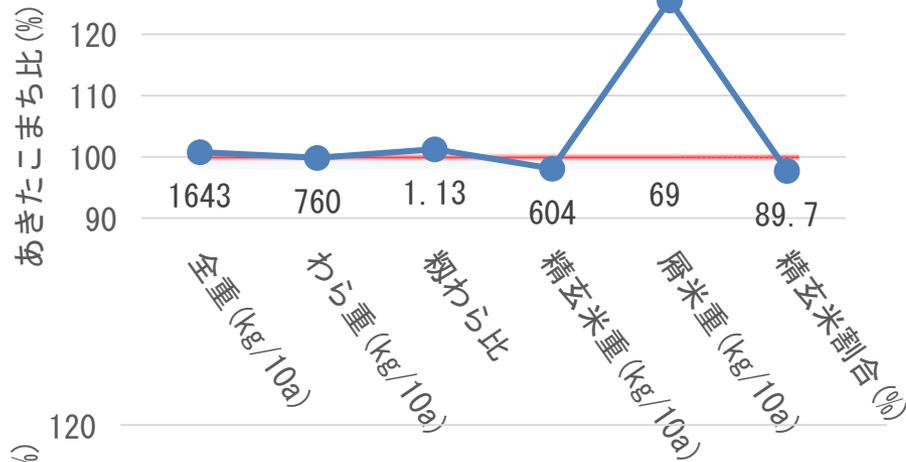
- ・ 幼形期までは、あきたこまちRはやや淡い傾向。
- ・ 減数分裂期以降は、あきたこまちRはやや濃く推移する傾向。

図中の黒字数値は あきたこまちRの平均値    緑字数値はあきたこまちとの比(%)を示す

# 収量と収量構成要素の比較

● あきたこまちR    — あきたこまち基準=100%

図中数値はあきたこまちRの平均値（実数）



収量項目について、平均値をあきたこまちと比較すると、

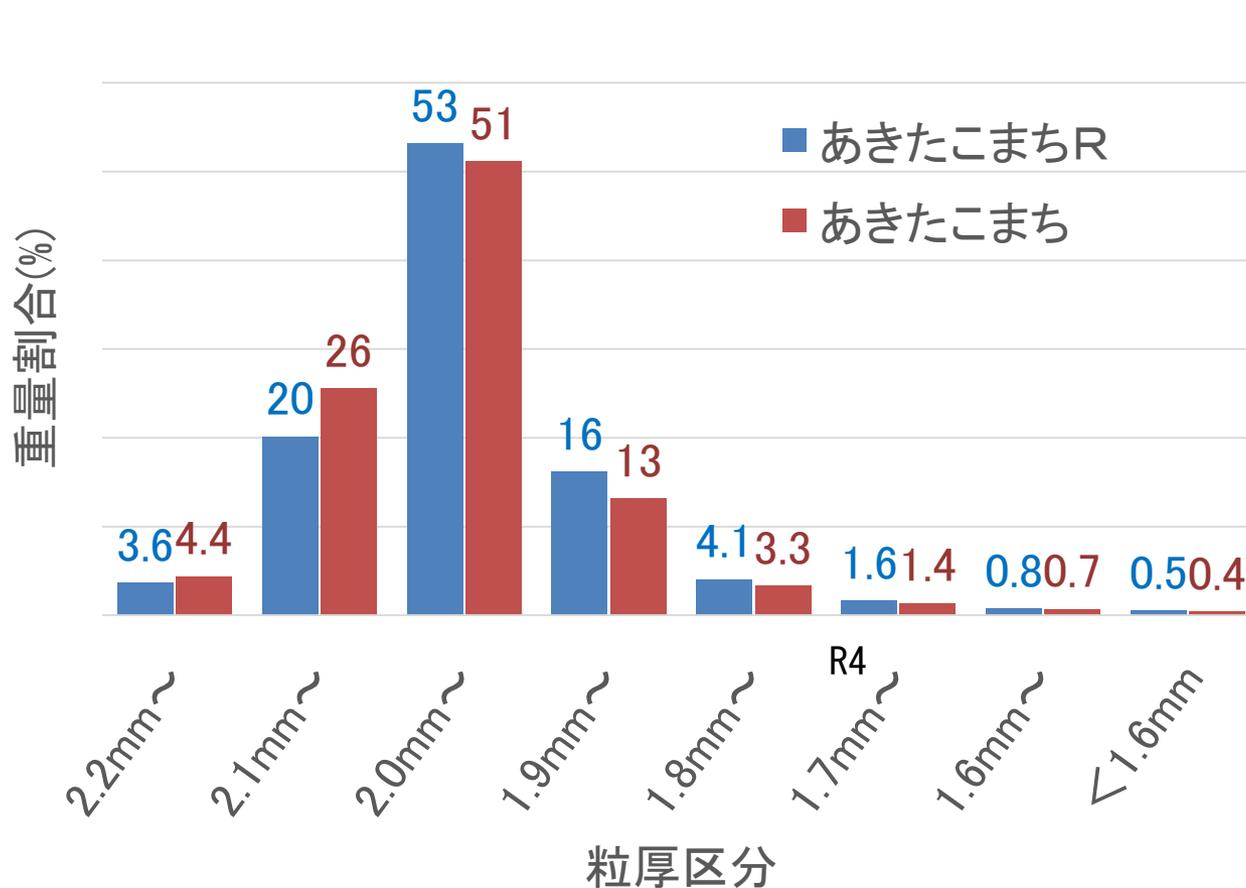
- ・ あきたこまちRの屑米は多い。
- ・ 全重や精玄米重などはあきたこまちとほぼ同等。

収量構成要素について、平均値をあきたこまちと比較すると、

- ・ あきたこまちRの穂数ならびに全穂数は多い。
- ・ 他の項目はあきたこまちとほぼ同等。

図 各項目のあきたこまちとの比

# 粒厚分布



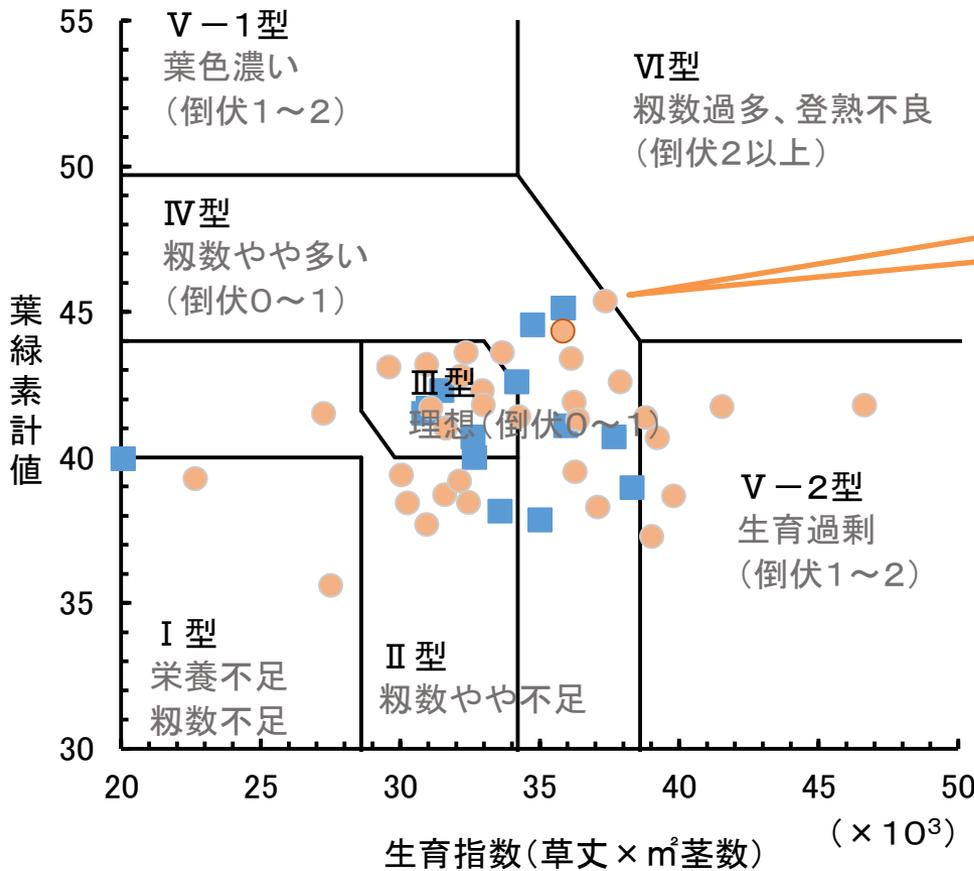
あきたこまちRは 2.1mm  
以上の粒厚割合が、あき  
たこまちより少ない。

図中数値は 重量割合を示す

# あきたこまちRの生育、栄養診断

あきたこまちの生育、栄養診断を「あきたこまちR」に適用可能か

● あきたこまちR ■ あきたこまち



幼穂形成期における栄養診断(中央)

R3,R4年は、倒伏が少ない年だった。

V-2型の生育に判定された試験区で追肥しても、無倒伏。

この試験区(基7のみ)で倒伏が最大1.1程度

幼穂形成期時の生育診断による追肥判定基準(あきたこまち、収量57kg/a)

生育型	窒素追肥量 (kg/10a)	
	幼穂形成期	減数分裂期
I型	2kg	2kg
II型	2kg	2kg
III型	ムラ直し1kg	2kg
IV型	なし	2kg
V-1型	なし	ムラ直し1kg
V-2型	なし	ムラ直し1kg
VI型	なし	なし

# あきたこまちRの栽培のポイントとは

## ★ あきたこまちの栽培方法が基本



あきたこまちと比較して（現在、わかっているところ）

- ・ 生育ステージ：ほぼ同等（±1日程度）
- ・ 生育：草丈は同等。茎数やや多い。葉色は生育前半は淡く、後半は濃い傾向
- ・ 精玄米重：同等～あきたこまちRが僅かに少ない。
- ・ 収量構成要素：穂数やや多く、全籾数多い。屑米重多い。千粒重同等～。  
粒厚分布は大粒区分が少ない。

肥培管理の調整/見直し

- ✓ 現在も「あきたこまち」の生育が、ほ場に合った生育で推移しているか。
- ✓ 理想的な収量構成を確保できているか。

加えて、近年の気象の傾向（高温化、気象変化大）に適応しているか。

イネ作りの再チェックの時期にきています。